

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は、建設コンサルタントに就業し、これまで北海道における国営の農業農村整備事業の調査計画業務に 25 年間携わってきました。

就業当初は、色鉛筆による図面作成や、色テープでの路線配置、報告書へのページ貼りなどアナログな作業も数多くありましたが、現在ではデジタル化が進み、コンピュータの利用はもちろん、イラストソフトや GIS、ドローン、コロナ禍におけるテレワーク等といった新しい技術を用いて業務遂行に取り組むことが必要な時代となっています。

このような中で、これまで数々の業務を行ってきましたが、業務の推進だけでは自分自身が建設コンサルタントとして順調にスキルアップできているかの判断が難しいことから、業務に関係する数々の資格取得を通じて、技術力向上のバロメーターとしての活用を図ってきました。

その中でも、科学技術に関する高度な知識と応用能力及び技術者倫理を備えている有能な技術者として認める国家資格の『技術士』は、管理技術者や照査技術者に必要な資格となっているほか、プロポーザル提案時の配点なども高い資格で、その取得を目指して、これまでに農村地域計画(現：農村地域・資源計画)と農業土木(現：農業農村工学)を取得してきましたが、集大成としている総合技術監理部門には幾度もチャレンジしているものの、取得にまだまだ努力が必要なようです。

今後は、進化する新しい技術を駆使するための資質向上や資格取得等による自己研鑽に務めるとともに、業務効率化をはじめとする働き方改革への対応のほか業務成果の品質向上を目指し、北海道農業の発展に微力ながら貢献していきたいと考えています。

松本 哲也 (まつもと てつや)

● 農業部門(農業農村工学、農村地域・資源計画)

勤務先

株式会社 農土コンサル



→次号は、野倉士敬さん(農業部門)

私は札幌市で高校卒業までを過ごし、その後、帯広の大学に進学しました。大学では水生昆虫による水質汚濁判定に関する研究を行い、趣味では野鳥観察などを続けておりました。

環境に関わる仕事に興味をもち、2000 年に現在の職場に入りました。入社後は、動植物の現地調査、事業による影響予測および保全対策の提案を主に行ってまいりました。

この業界に入るまでは、技術士という資格の存在を知りませんでした。しかし、担当者として業務に関わっていくうちに、自分の技術力を高めることや、顧客の要望に答えるため業務を的確に進めていくことの重要性を痛感し、資格取得に挑戦することとしました。これまで複数回の受験に挑戦し、なんとか 2 部門を取得することができました。試験に際して意識したことは、一般論だけの回答とならないように、自分の考えをしっかりと盛り込むことでした。これから受験する方へのアドバイスとして、日頃の業務で報告書を作成する際には、専門技術者以外でも一読で内容を理解できる文章作成を強く意識することです。私も当初は専門用語ばかりで、内容が伝わり辛い文章となり苦労しました。しかし、手本となる文章を見つけ、それに近づける努力を重ねた結果、読みやすい長文を短時間で書き上げることができるようになりました。

今後も、技術士の名に恥じないよう、動植物の知識向上を図るとともに、絵空事では無く実現可能な保全対策を提案できるよう、設計や施工の知識も引き続き習得し、地域社会の環境保全に貢献していきたいと考えております。

藤原 久司 (ふじわら ひさし)

● 建設部門(建設環境)
農業部門(農村環境)

勤務先

株式会社ズコーシャ
wara@zukosha.co.jp



→次号は、横堀 潤さん(農業部門)